

尾列石古居揚河靈岳院 極天瑞宮 別尚社 十月朔書状之内

一宝双六振并十一一 一陸六本

右何より南より人々死す上之鏡三面内一面破却三面若
西園抄寺より双陸鏡の号いし持系杖以外一借並に海
次才右山号何より一而之入以證也

右中務郡目比邑隣今高山村は大神宮の御流に由る住古
大神宮伊留所移の所右村一夜此宮に由る由早俗中傳は
是の目比村高き敷証に在る只今是を見當山と申て
大神宮伊留所越の所此山にて見當と見えぬ見當山と申
証は方角寺と云寺乃由今名のとて別傳家と云を
かまじり古屋浦見當山に在る屋敷と云別武在内と申は
別武林在と云て小石の土の中は昔又長十五年右村軍陣の
右号未中甚は均者十月廿六日と申状

宝双陸鏡の号字來

尾列家より出た本神村

申傳郡目久井村に於事申古所結号而此傳り又い
右村一系双陸鏡の紙の上は並号いし一傳り九に免入合
上方通今俗家と云浦と成其の前古大神宮に在る
と云取りと云右見當山と云中より方角寺の建立は後代
のこの中より今寺とも古俗家と云浦と成其の別武在
と申の別武のこのも此傳り知史祖系此山と云傳り
少の取有るは取返すいし此大川より渡りて打并魚
竹いしと云り右太の竹は系向一紙に九に免古の号字
と云り中今在月より三代先の文右書と云者家所と云
別武といし中比村の事及福西南に大神宮之夜に般
として小大門に文右在出所神代に海免人等大神宮に
と申此公有太と云と海免大神宮の中のことと云後
号は此在也

右寛政元年十月廿六日と云状月十二月二日相在

中路郡神戸村農民甚八屋好の山より寛政元年
己酉至六月十六日小石取行つて是地世り流三面

尾列家より出た本目久井村に不殘神戸村魚と云り極目久井神戸相交所カ不明本之ミ
道進可改

尾刈家より此日本目久井村ヲ不殘神戶村ニ置テ置進テ可改

中嶋郡神戶村農氏甚八屋塔の山より寛政元年
 己酉夏六月十六日小石塔塔行へつ建塔せり流三
 剣弟の於十三本の圖



山の
 三石余

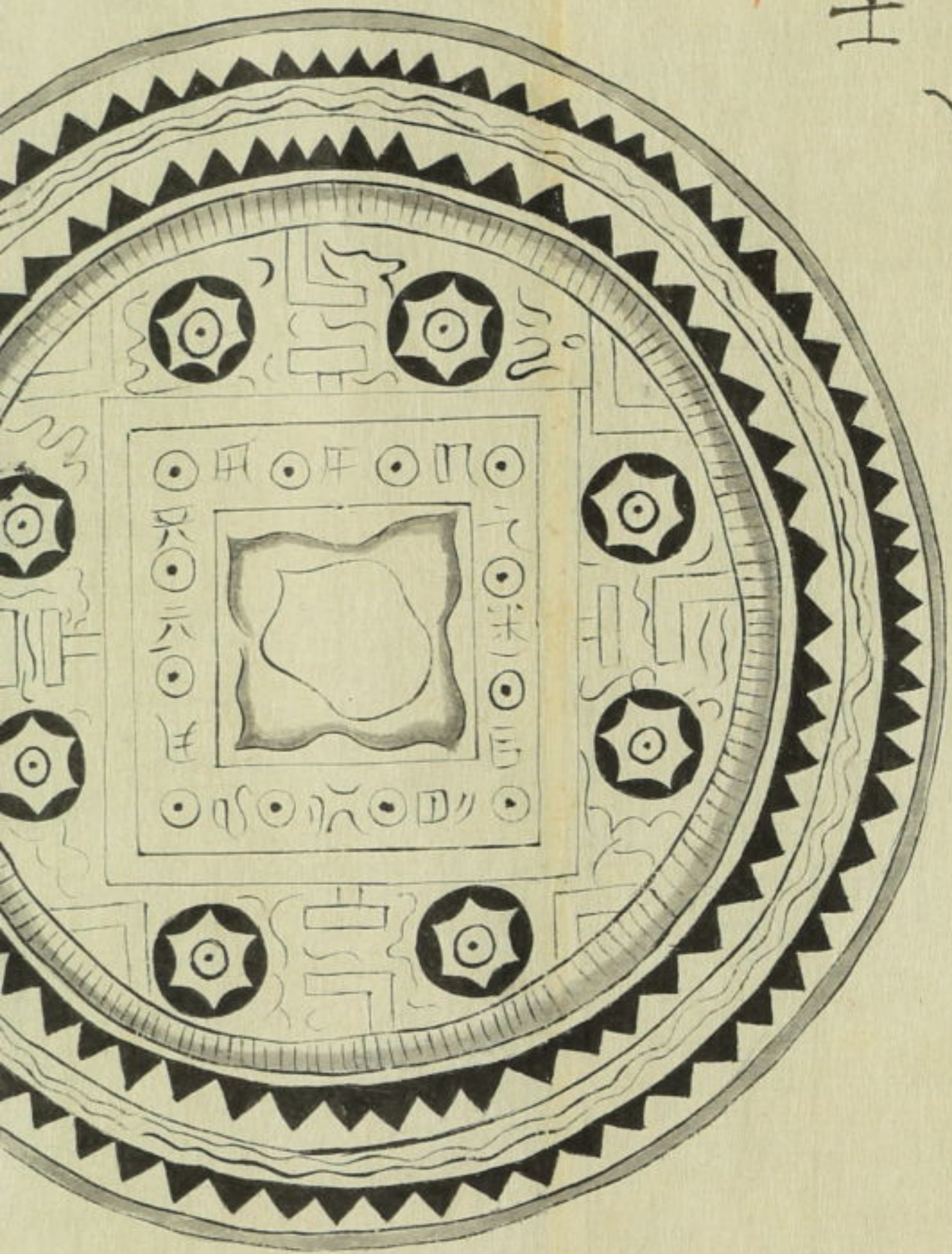
此所
 去小塔あり

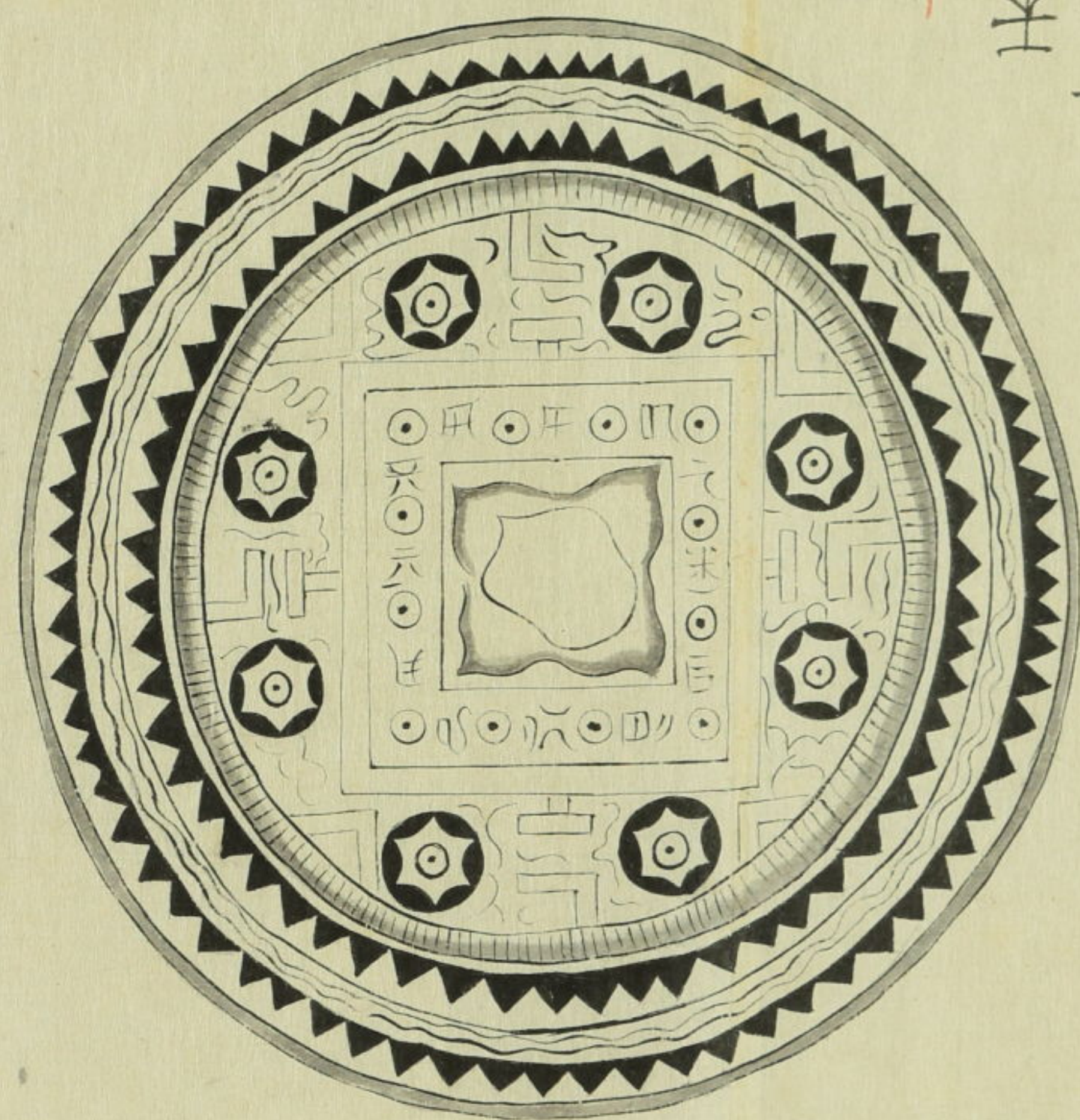
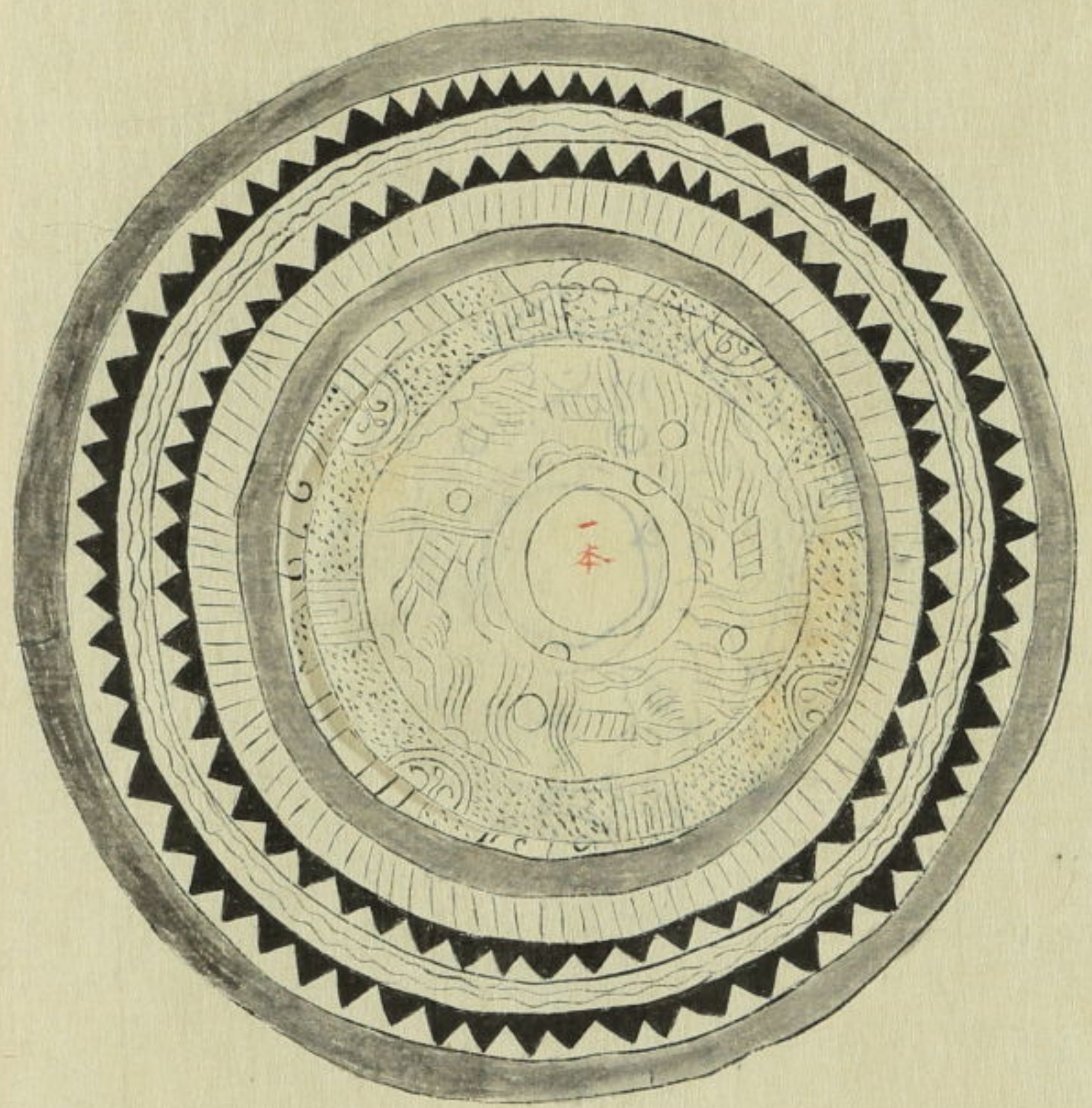
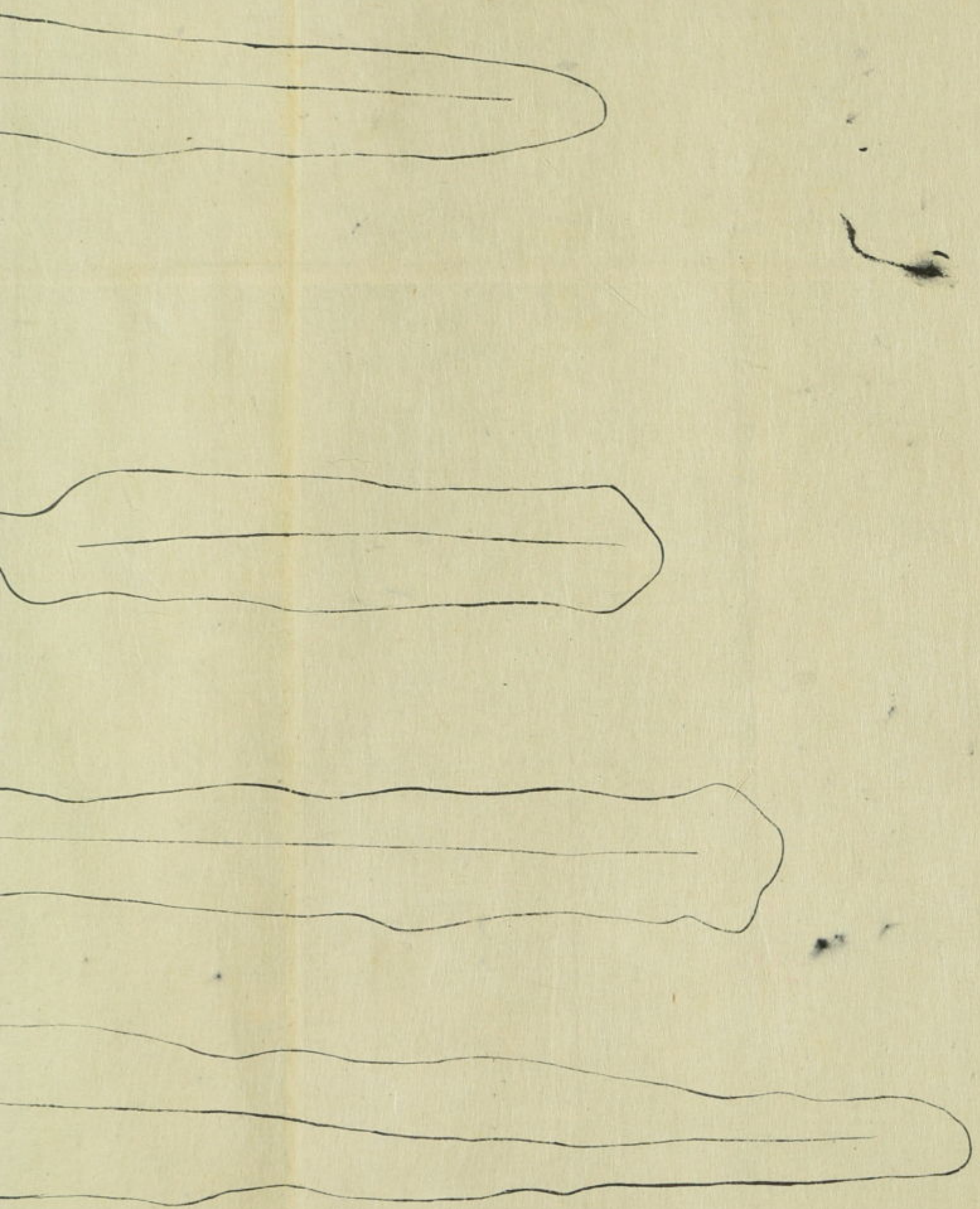
甚八屋
 有石の
 小石塔
 の山より

往古見嵩山方角寺と云此下
 あり蹟ありと云人傳る
 ところあり

凡
 支
 子
 乙
 卯
 乙
 卯
 乙
 卯
 乙
 卯

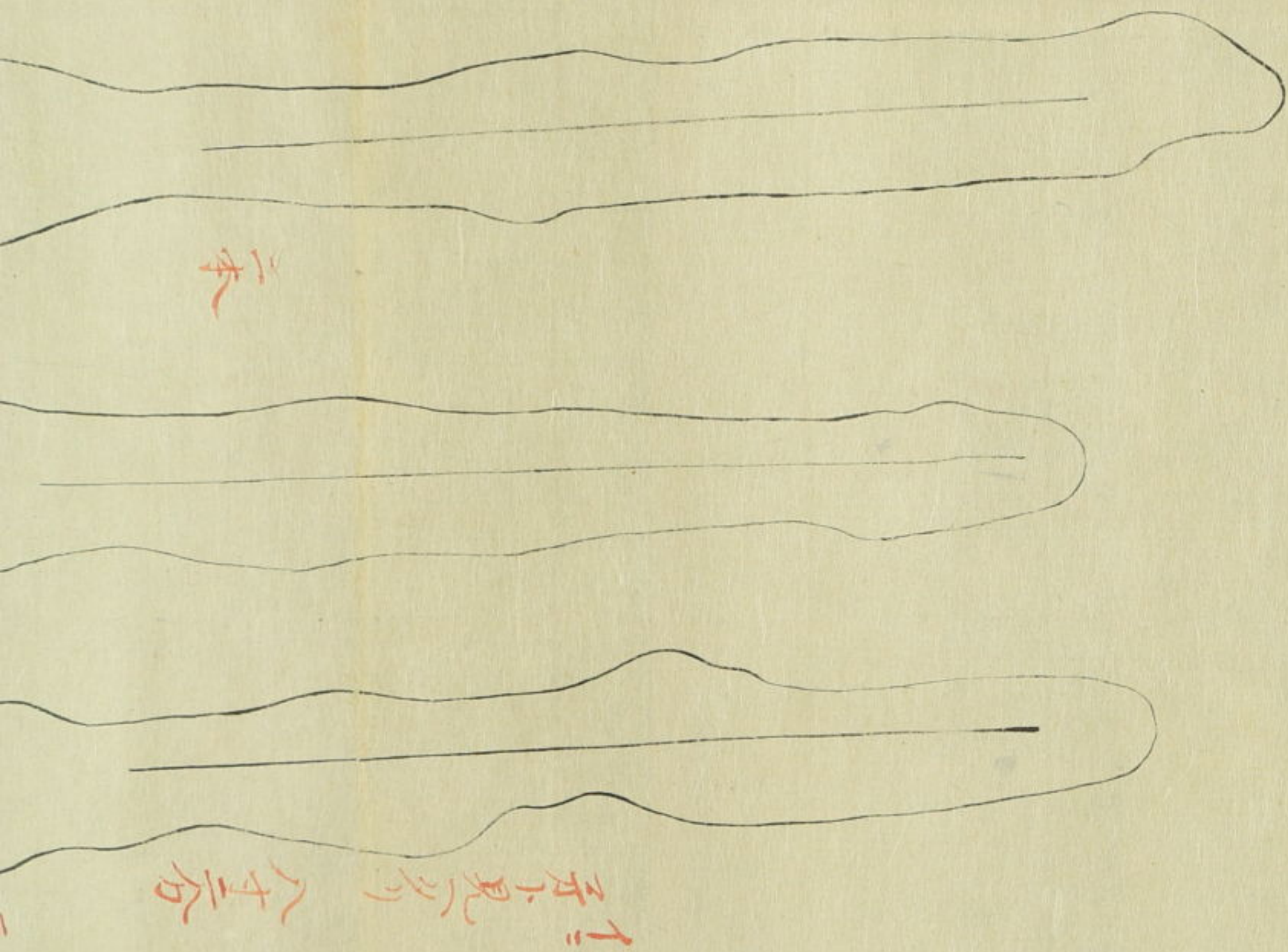
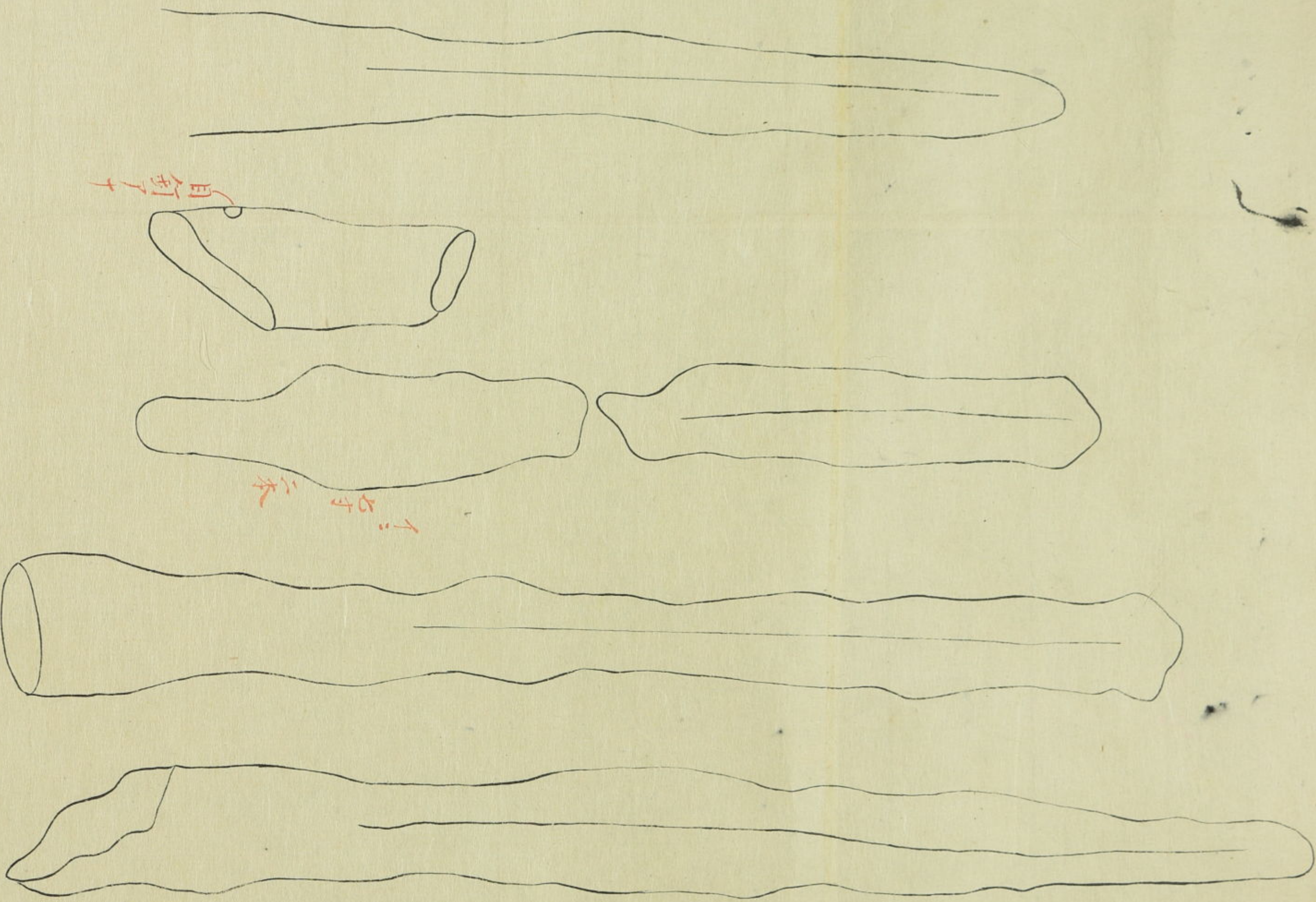
カ
 シ
 ノ
 内
 九
 ノ
 ア
 イ
 タ
 ノ
 文
 字

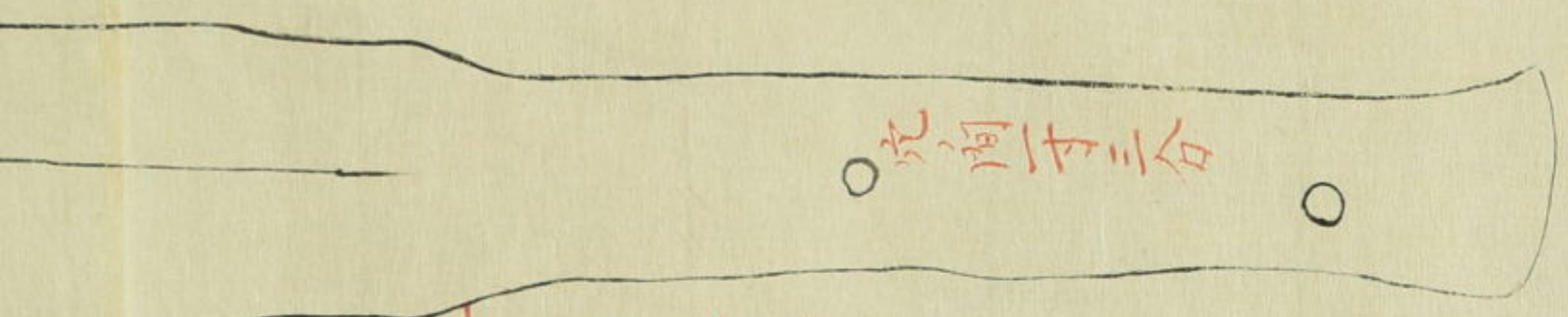




カニノ内九ノアイ
夕ノ文字

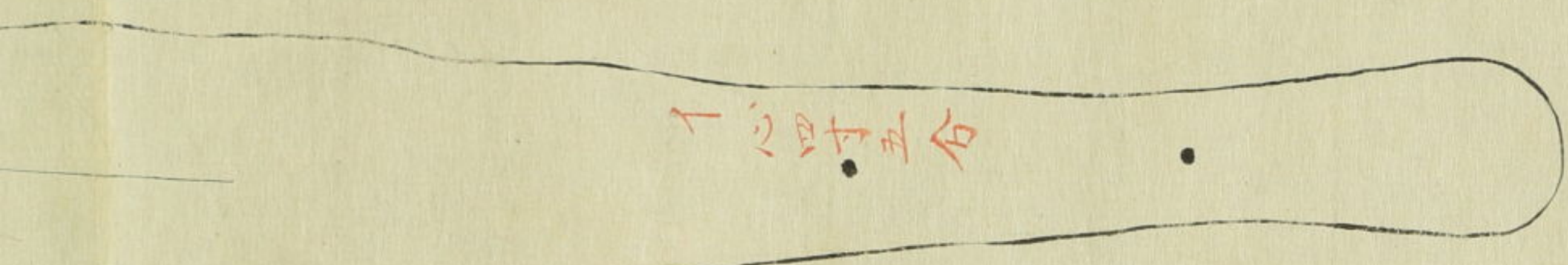
如 卍 卍
卍 卍 卍
卍 卍 卍





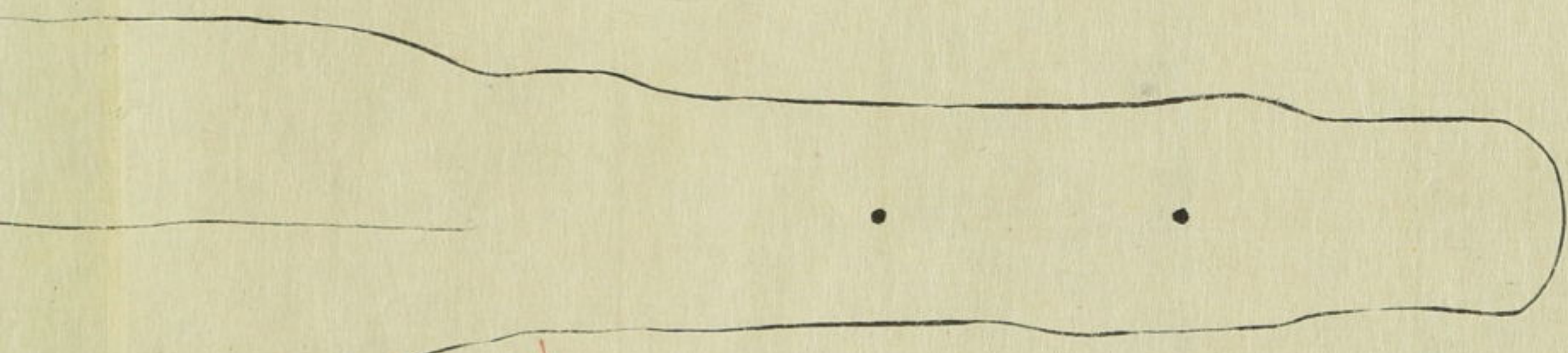
底間十三合

此所本朱付也

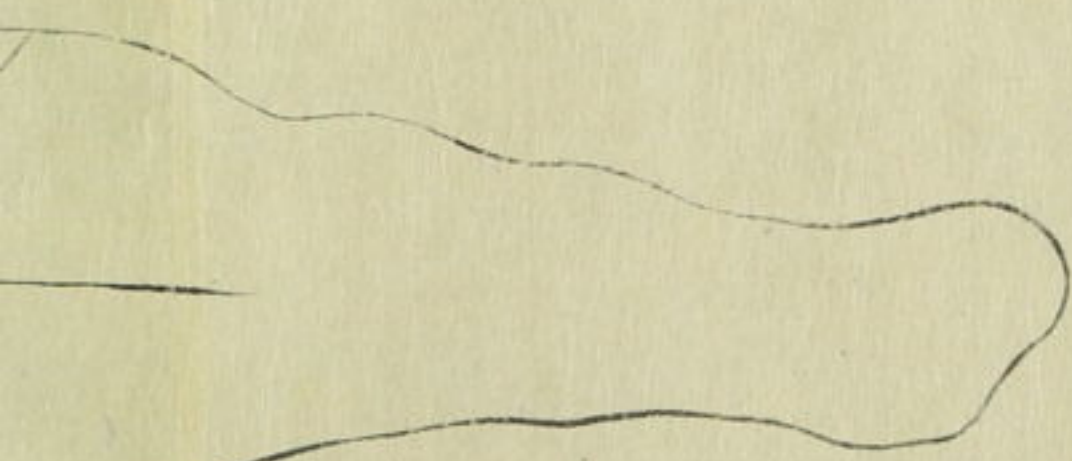


一寸四寸五合

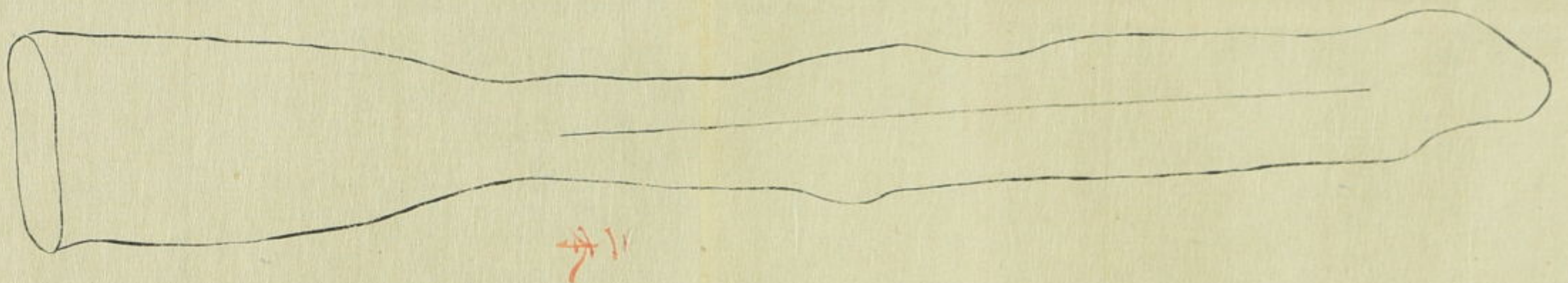
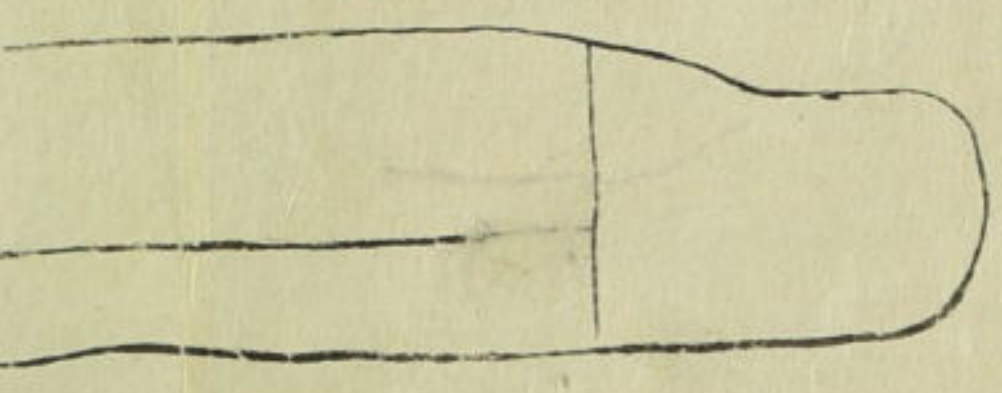
此品本朱付也



此品本朱付也



此品本朱付也



二本



二本
再上見(分) 八寸五合

宛商一万三石

此每本米付五

丁心四十五石

此每本米付五

廿五石

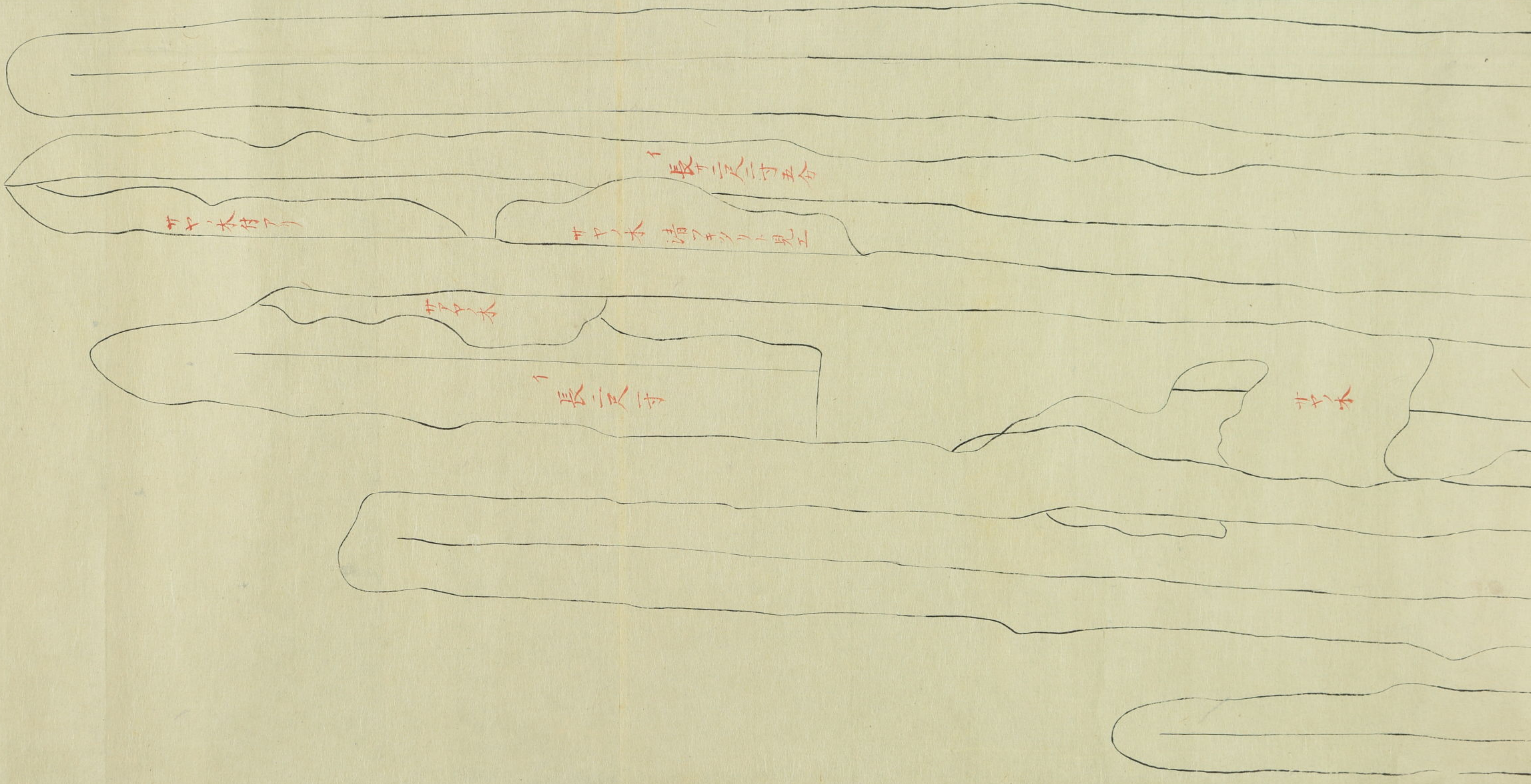
廿五石

廿五石

此每本米付五

廿五石

此每本米付五



長二尺二寸五分

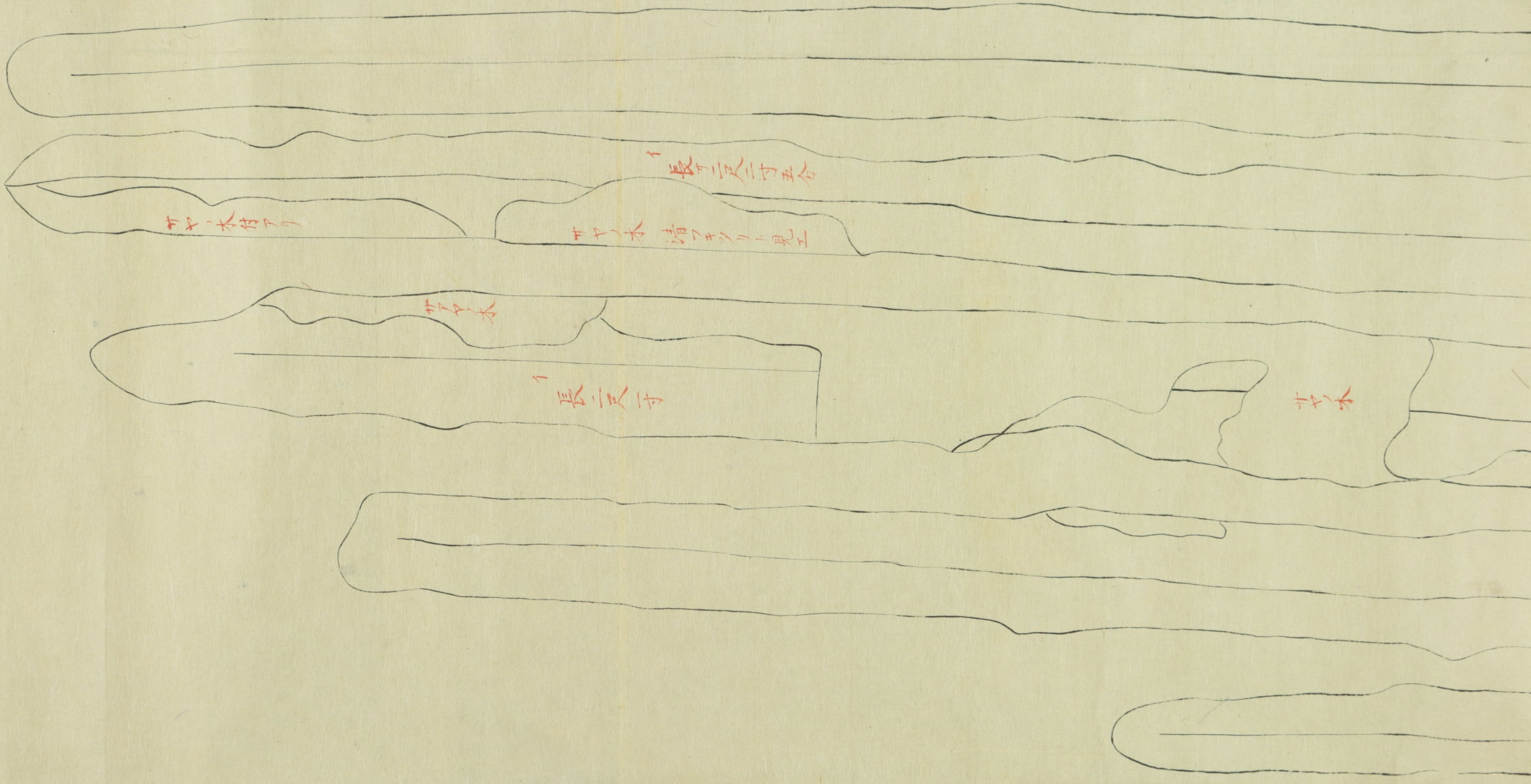
サヤ、木付アリ

サヤノ木 清クキツリト見エ

サヤノ木

長二尺寸

サヤノ木



サヤ、木付アリ

イ 長サ二尺二寸五分

サヤノ木 清キツリト見エ

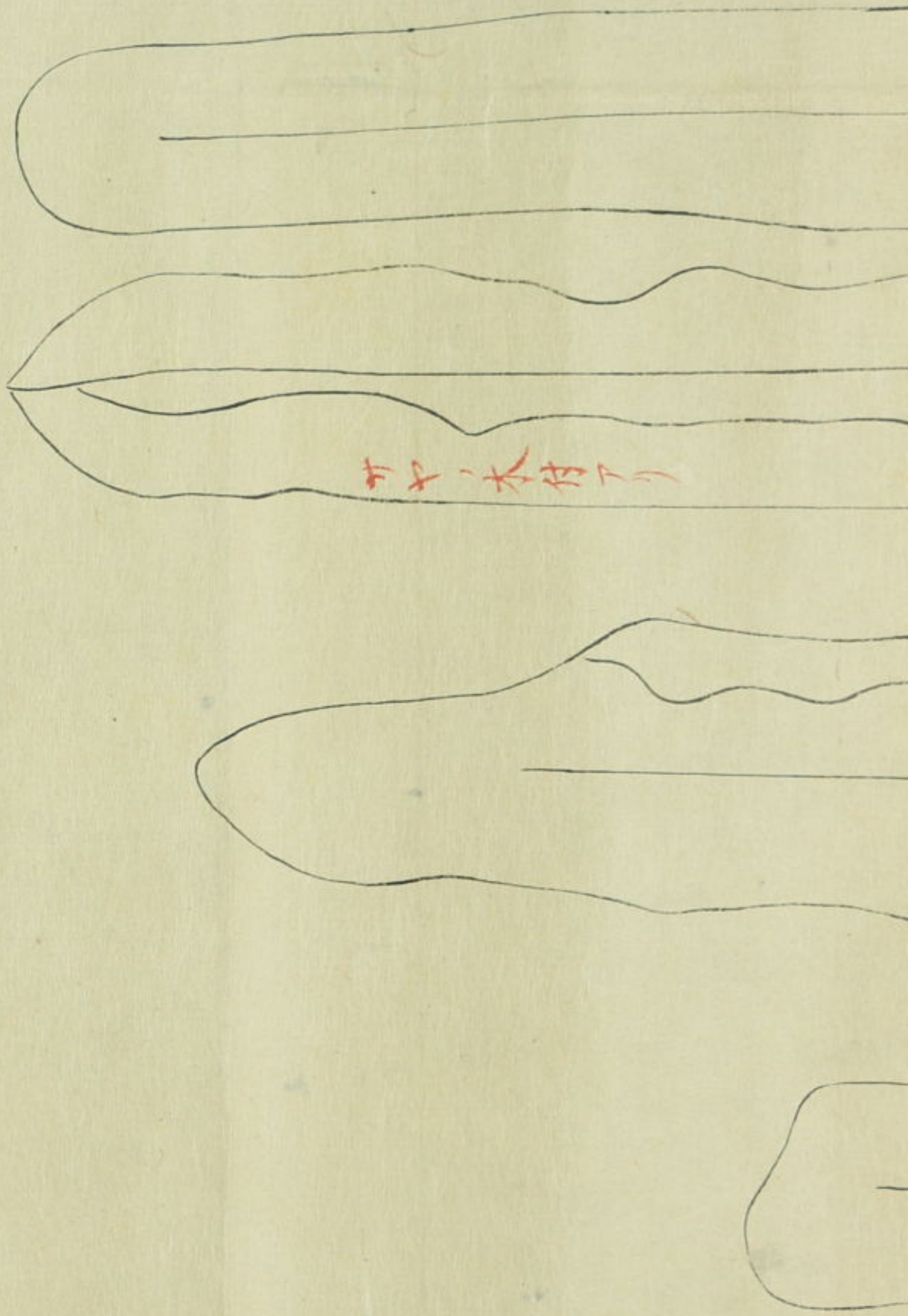
サヤノ木

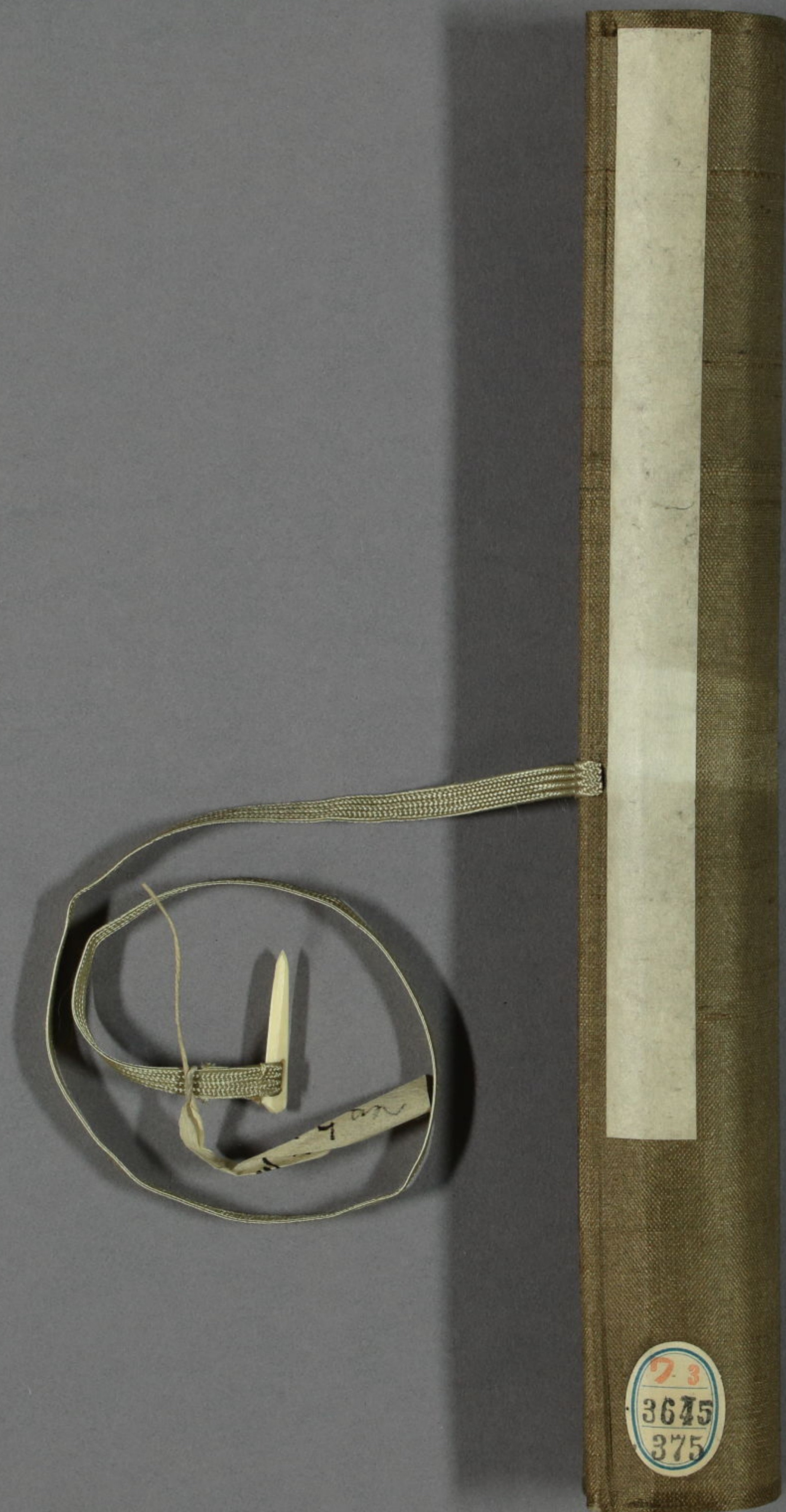
イ 長二尺寸

サヤノ木

文保年仲冬三日寫之

八幡与一百里







3645
375

尾州所出金圖

3保子
3045
375



尾列古倉揚町靈岳坑 極天満宮 別高祖 十月朔の書状之内

一宝函六振并小一于一鏡六本

右何連南宮より鏡三箇内一箇破却三箇素
西國抄寺より鏡鏡の素一持系杖以外借並有海
次才右山寺何連も一取て入以鏡也

右中條郡目波邑隣々山村乞大神宮の御孫に重信吉



23
3645
375

23
3645
375